

多摩川河口干潟の生きもの観察会 第6回

日時：2019年7月29日（月）9:30～12:30

場所：川崎市環境総合研究所1階大会議室、多摩川河口干潟（川崎区殿町3-25-13地先）

干潮時間（川崎の潮位）：47cm（10:00） **天気**：晴時々雨一時曇

テーマ：「干潟の生きものスケッチ教室」

対象：小学生以上

参加者：58名 こども32名、おとな26名

講師：江良弘光氏（サイエンスグラフィックイラストレーター）
小林 範和氏（鶴見川流域ネットワーク）

スケジュール：

時間	内容
9:15	受付開始
9:30	開会（あいさつ、今日の説明、講師・スタッフ紹介）
9:40	講義 ●干潟ってなんだろう？ シジミとアサリによる水質浄化実験 ライフジャケットの着用方法・身支度準備
9:55	観察会 ●干潟に行ってみよう！ 干潟に出て、生きものの採取と観察
11:15	スケッチ教室
12:15	貝の浄化実験の確認、まとめ
12:30	アンケート記入、閉会

内容：

●講義

- ・干潟の干満のメカニズム、生態系の特徴
- ・干潟に暮らす生きもの
- ・干潟の水質浄化の仕組み

●安全講習

- ・履物、ライフジャケットの着用について

●準備

参加者の服装・装備

貸出：ライフジャケット、バケツ、移植小手またはシャベル

各自持参：長靴（田植え用長靴、または履き口フード付きのもの、脱げにくいもの）、
よごれてもいい服（長袖長ズボン）、軍手、帽子、飲み物

※長靴を持っていない方には、田植え用長靴の貸出を行いました。

●観察会

干潟の生き物たちは周囲の環境ごとにすみ分けているので、そこに注目しながら、どこにどんな生き物がいるか観察しながら採取しました。研究所に戻り、スケッチを行ううえで、生きものを観察するポイントを教わりながら、カニや貝などをよく観察してスケッチをしました。

●シジミによる水質浄化実験

観察会の出発前に、3つの容器にきなこをいれて、2つの容器にはシジミ、アサリをそれぞれ投入し、3つ目の容器には何も入れず、観察から帰ってきたら（約1時間半～2時間後）どうなっているかを観察しました。

今回観察した生きもの (採取した生きものは観察後、元の場所にもどしました。)

全 12 種類

- 甲殻類 カニ 8種 (ヤマトオサガニ、タカノケフサイソガニ、チゴガニ、コメツキガニ、アシハラガニ、クロベンケイガニ、カクベンケイガニ、アカテガニ)
- 貝 類 4種 (ヤマトシジミ、ホンビノスガイ、ソトオリガイ、オキシジミ)



<参加者の感想> (一部抜粋)

- ・色々な種類のカニを見て、漫画みたいに全て赤だと思っていたのが違った。噛まれたのが痛かった。観察をしてみてカニの違いなどにも注目した。貝にも興味を持った。(子ども)
- ・色々な種類が居た(カニ)アシハラガニに噛まれた時、痛かった。地面に沢山穴が空いていてビックリした。(子ども)
- ・小さく身近なカニでも厳しい自然で生き残るため工夫がされているんだなと思いました。(子ども)
- ・カニのことが詳しく知れてよかった。スケッチすることで観察ができ、スケッチの大切さがよく分かった。(大人)
- ・説明等、お話がみな分かりやすく上手で良かった。観察、採取時間がもう少しほしかったけど、暑かったので丁度良いかなと思った。(大人)
- ・川崎にこんなに沢山のカニがいるとは知りませんでした。貴重な体験が出来ました。(大人)